



難圧延鋼板・金属板の試作製作

真空溶解、熱間・冷間圧延により、研究開発用の材料試作および各種評価を行います。

技術の特徴

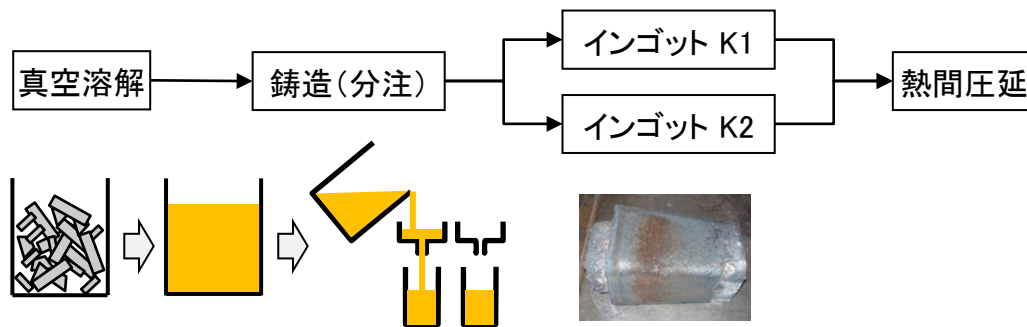
- 高合金鋼（添加元素の合計量が10wt%以上）は、圧延中に割れが発生することが多く難加工性であることから鋼板製作が困難である場合が多いことが知られています。



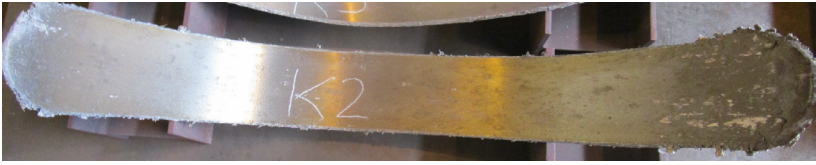
高合金鋼を真空溶解炉で溶解し、適正な条件で圧延加工することで、割れやすい高合金鋼の薄板材の作製を受託いたします。（熱間圧延 板厚6mm以上）

板材作製後の熱処理、各種機械試験などの評価も併せて受託いたします。

評価事例

- フェライト系ステンレス(Fe-20Cr)にAlを添加した鋼塊を溶解し、異なる条件で熱間圧延加工を行った事例を紹介します。条件の適正化により、割れやすい成分系でも鋼板を作製できます。



	鋼塊成分	鋼塊重量	熱延条件	圧延材の外観	熱延成否
K1	上記の通り	25kg	通常	  <p>熱間圧延の途中で割れ発生</p>	×
K2	上記の通り	25kg	最適化	 <p>割れなく薄板材の作製完了</p>	○

豊富な経験を基に、難加工性を示す鋼塊であっても適正な圧延条件を検討し、ご要望通りの鋼材を試作いたします。鋼板作製後の各種評価も併せてご相談ください。



JFE テクノリサーチ 株式会社

<https://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2024 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved. 本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。